

【伝道者の書 3 章 1 節】 天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。

「天の下では」とは、この地上の世界のことです。「何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」と、主は御自身ごじしんの計画（ビジョン）をもっておられ、それは主が定めた時に成就していくのだと語られています。主の思いは、私たちの思いを遙かに高く、広く、深いものです。そして、主は、御自身が定められた最善の時に（もっとも素晴らしい時に）、最善のご計画を成就されます。

「神のなさることは、すべて時にならなくて美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」（伝道者の書 3：11）と、私たちが、この地上で、生活し、信仰の歩みをするなかで、全知全能の主の御声みこえに聞き従う信仰の対応をするように語り、勧めておられます。

「私は知った。神のなさることはみな永遠に変わらないことを。それに何かを加えることも、それから何かを取り去ることもできない。神がこのことをされたのだ。人は神を恐れなければならない。」（伝道者の書 3：14）

神からことばを受けた後に、それがなかなか成就しないことを、私たちは経験します。しかし、「神のなさることはみな永遠に変わらないこと。」と、語られています。神のことばは変わることなく必ず成就します。ですから、私たちクリスチャン一人一人は、信仰により、御声に聞き従い、主の最善の時に、主の最善の計画（ビジョン）の成就する、主の栄光をみてまいりましょう。